大正十二年十二月二十四日第三種郵便物認可毎月一回十五日發行
大正十四年十二月十三日印刷納本　大正十四年十二月十五日發行

光

第四十八輯
大正十四年十二月

◆もし預けられたら……西田天香
◆光と祈……吉田卯一郎
◆道場清規について……松下吉衛
◆A夫人の實弟Y氏に送る……德水生
◆臺灣の秋……すゞき五ろう

同人　懺悔報恩の奉仕者
祈願　不二の光明によれる生活
費用　供養されたる淨財

◆光明へ……八田勝三
◆この頃の私……樋口地笑
◆上海より……安藤州一
◆未明の先驅者(三)……水上鐵治郎
◆英國社會運動史(二)……松下吉衛
◆鹿ケ谷だより……無庵

一燈園・宣光社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は即ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し許されて生きむ。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ他に障りなき生涯を送らざる可からず。

諸宗の眞髓を禮拜し歸一の大願に參ぜむ。

内外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆倶成就大圓覺

別願　將來世界眞平和

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

懺悔の爲に奉仕し報恩の爲に行乞せむ。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脱るゝことを得べき。願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

法爾の清規に隨ひ世諦を成ぜむ。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生產業に即して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し、以て在家俗諦を成就せんことを期す。

即ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せむ。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天國、文明の隆興も進化の事象も乃至淸規戒行も、此の見地よりすれば即ち一の遊戯三昧に過ぎず。憾むらくは、個中の消息もとよく言辭の擧し得る限りにあらざるを。暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尙自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその淸規を守ることによりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷紛爭葛藤を根絶し、以て齊家治國平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては即ち無相不二。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

預けられたら

西田天香

一燈園生活者が、もし家を預けられたらどうするか、その事について申します。一燈園の持ち方は、お光から預るので、女房を持ち子供を持つても、路頭の姿で持つのであつて、自分のものとして家を持ち、物を持つて歩くと泥坊がつく、物持つ事はそれだけ障りがあるのです。一燈園の持ち方は、お光か財産を持つのではない。執着して物を持つ事は、幸ではない。爭ひが起つたり荒むで來るやうな事になります。徵兵檢査官の話に、此頃の壯丁は、ヒヨロヒヨロ長くて、そんなのはたいてい胸の病氣にかゝつてゐるが高等敎育を受けたものゝ方に多いやうであるといふ事です。憂はしい事であります。貧しくて汗をして働くものは割合元氣であります。

何も持たぬから氣樂であらうなぞいはれます、それかといつて、そう云ふ人は、自分にその園の生活に進む氣はない、そして問題に惱んでゐます。

此間雜誌へ燈影塾の事を書きましたら、商人の方が來られて、塾の持ち方のやうにして、私の家を持つてくれませんかといふのです。なぜですかとき〻ますと、塾の事を讀んで見ましたが往き詰つてゐませんからといひます。それでその商人の家の往き詰りを調べると、其人は其店で、食べねばなら

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ぬといふ考へがあるのです、それが往き詰りをなすのであります。

塾に居る人は、一人として、こゝで食べねばならぬといふやうな事を考へてゐる人はないのです。路頭でお光に惠まれる、自信を持つてゐます。塾がなくなつても困る人は半人もゐない。ただ預けられるから預つてゐるだけで、一燈園の建物を預けられたと同じやうに、頼まれて預けられたので、家賃も出してはゐません。私が預り主になつてゐますが、私は塾內の空地に帖半寮といふ、起きて半帖寢て一帖といふ小さなものを供養のお金で建てゝ、それも私のものではなく、四人の園生活を貫く女性の安居の處であります。此女性達に申します、水晶の玉のやうに、どこへ轉つてゐてもよろこばれる生き方をしてゐられるが、またちよつと、くぼみがあると更らにまた落ちつけると、そんな事から帖半寮を女の人の爲にこしらへ、かりに私がそこにゐるのです。塾の中には、箱を張る人、裁縫をする人、皆お光の因緣によつて集まつてゐるのです。私から賴んで來て貰うた人はありません、あの家に私がもし威張つてゐるのなら、月々四五百圓も儲けねばなりませんが、ちつとも儲けいでもよいのです。それでも家賃位積み立てゝ殘つてゆきます。それは執着のないところから出發してゐるからです。執着はせぬが、持つ事を賴まれたらまた持つだけの見識がなければならぬ。

或る渡し場の乘合船に目の惡い爺さんが乘つてゐた、頑強そうな若者も乘り合ひました。若者達は、威張つて傍ら人なきが如く、目の見えぬ爺さんは、小さくなつてだんだん隅におひやられました。そのうちに波が荒れ出しました、大變威張つてゐた若者は、ヘトヘトになつて弱つて仕舞つた。さつきから隅に小さくなつてゐた爺さんは、此時目が見えぬので、私を櫓の傍へやつて下さいといつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

て、櫓の傍へ行くと、仁王立ちになり、天の一角を睨んで櫂をとりなほして、川へ船を無事に入れて仕舞ひました。若者は威張つてはゐたものゝいざといふ時何の役にも立たなかつた。たとへ器量があつても、熱を吹いてはならぬ。まして器量もなく、修業中の身は、毫末も他の批評は出來ません。それどころではない、自身うつかりはしてゐられぬのです。血氣のものがすこし許りの托鉢に御苦勞さんと云はれて、それでよい氣でゐたら大まちがひです。世間を見ても、小供の三四人も持ち、借金もあつたりしたら、稼ぎ通さねばならぬのです、油斷も隙もないのであります。純な氣持や、美くしい氣持や、たゞそんなに優しいものでは此複雜がとりきれるものでもない、鳩の如くにやさしくて、一面蛇の如くさかしくなければおさまりはつかない。しかしそのやさしさも鋭さも皆お光りからのものであらねばなりません。我執のさとしいのではありません。さき程も申した京都の商人の方に、あなたはその仕事で食べやうと考へてゐるから往き詰りますといひますと、それがいけませんかと、驚いて歸られました。その人が塾のやうに家が持ちたいと望むなら其人其家内全部が托鉢の人にならねばならなくなるのです。

塾の表庭に少しの空地がありました、そこへ天幕を張り簡單に手細工でお休息場所をこしらへました。そして麥湯を用意しました。電車の停留場なので、電車を待ち合せる間、おやすみになつて、雜誌や新聞を見て涼しそうに休養して行かれます、此間名刺に野菊を一輪そへて行つた人がありました。よいお仕事ですな、とよろこびあふれて野菊をそへられたゆかしさ、求めるところのないそこを見てゆかれるのです。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

普通は家を持つと、それで食べねばならぬ、住まねばならぬ、その要求がそのまゝ悩みとなります。しかし家を持つとなると、一燈園の氣持だけではむづかしいのです。いろ〳〵の世間の問題を療治する智慧が入用です。世の相を見るに、悩みのない家はない、悩むに及ばぬ事で悩むでゐる、悩みの出發點が間違つています。土臺が歪んでゐる、積み上げる程危い、一燈園の生活は、土臺を確かり置いて行くのです、いくら積み重ねても、大丈夫にならねばなりません。往き詰つた家を、宣光社式にして持ちなほそうと言ふのは、歪だ柱を直す事になります。むづかしい難工事である。それでもまかされたら、難工事でも逃げずやり了せねばならぬ筈です。もしそれが出來ないといふなら園の生活を半分しかせぬ人といはねばなりません。燈影塾の記錄を後の參考の爲に私はかき殘して置くつもりです。この生活では家を持ちがたいとか持たれないとかいふ人によい參考であります。

塾は第一宣光社です。柱も歪んだまゝて直す考へのないのを、直させるのがむづかしい、それは第三宣光社であります。隨分複雜に入らねばなりません。自ら女房を持ち、家庭を持ち子供を持つ事が其第一步であります。それ程の宣光社の仕事は、一燈園の仕事に比べておとるものではない。ちよつと見ると、自分のものをでなく、預り持つのであるが、それでも持たぬ方を神聖と見るが、それは同じ尊さであります。今一燈園へ來かゝる道すがら丸太町を來ますと。敎會がある。そこで話をきゝましたが、ローマ法王の天主敎の支配から英國は脫却して聖公會を立てたのだそうです。宣光社を思はないで、ただ單純な一燈園生活を一番よいやうに思ふやうに、ローマ法王は自分だけで行けるやうに特權をふり廻すので、英國は堪へなかつたのであろう。政治家が法王に政治を談じても、法王は政治の器量もなかつた、それで交涉を斷つて聖公會を建てたのだそうです。儀式も舊敎で嚴肅である、新敎は自由敎で長所もあらうが、また宗敎的墮落もある、舊敎にはよいところがある、一燈園も戒律・

めいたところが舊敎によく似た處がある。一燈園生活も、一燈園だけでよいと思ふやうでは、半分である、宣光社を深く學ばねばなりません。

優しいよい氣持許りでは國は持てぬ、一燈園許りではほんとの生活でない、宣光社と二つが車の兩輪でなければならぬ。ルイは、宣光社を知らぬ人であつた。人の惡いのを止める事が出來ぬ。本山では、管長さんがあつて、執事長がある。淺草の觀音さまは、一燈園で、表の仁王さんは宣光社である。兩方あつて完全なものとなるのです、たがいにこちらだけでよいと威張つてはなりません。

山岡さんの別莊へ園を理解する人達が集られました。今度の集りだけはせめて自動車を止めねば園へすまぬといはれて雨の日でしたがたいてい歩いて來て集られました。何かの都合でおくれた方だけが、自動車を用ひる事になりましたが、園の二三人も自動車に同乘せねばならぬ破目になりました。ところが雨の爲め道が崩れて自動車が動かなくなつたので、園の人は早速飛びおりて襦袢着のまゝ、ずぶぬれになりながら手傳いましたが、よい氣持だつたのです。

後に坐席に通り平等によい氣持で語り合ひました。こんな風に解放したらよい事ですなと御主人に話しますと、一燈園の人ならよろしいが、たゞの勞働者なら、別莊は、よくはなりませんから、それは呪ふ氣持があるからといふのでした。

お光といふところに、一つの氣持となつて、有產階級へ行つても整理が出來るのです。この氣持をあらゆるところへ應用したいものです。一燈園生活を基礎としてゐればよいのですが、食はねばならぬところを出發點では駄目です。

ロシアの勞農政府のやうでもまだ往きつまる。園は小さくともその用意はある、これを延すと國家を建て替へる事にもなるのです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

要するに一燈園生活でよい氣持になり、この氣持で女房を持ち、子供を持ちして隨分多くの人の役に立たせて貰ひましたが、此氣持でもし自分の家として預つたらどうするか、塾はそれの試みであります。塾内の人は皆生活といふことに於いては無關心で、そしておもしろく生活してゐます。たゞちがふのは、他家に比べて贅澤をせず、世間並の交際はせぬ事です。無理をしない實業家のやうでもありまた寺のやうでもあり、塾のやうでもある。此標準を以つて、世間を見ると、その方法を知らないで、無理し往きつまつてゐる事がわかります。往きつまつてはまた一燈園と緣を結ばれるやうなことです。

滿洲の商況を聞きましたが、だんだん日本の店から品物を買はずなり、支那の店から買ふと云ひます。それは支那人の生活程度が低いので、日常の暮しに金が要らぬから、自然商品が安くなるのです。それは臺灣でもそう聞いたのでした。今まで兵力をもつて滿洲を我がものとしてゐても、今に商業に於てとられて仕舞ふと憂ふる人もゐます。一燈園生活から行くと、奪ひ合ひする事もない、すがすがしい樂がある、健康である。かうした生活を一般に調べて置かねばならぬのであります。

皆さんは祈りをもつて、みんながよい道に出られるやうと、今迄の生活から拔けてこられて、一日も遊ばぬ生活をしてゐる、御苦勞樣といはれるだけくらゐにやすんじないやう、還相回向の研究をせねばなりません。

同じお光の生活を基礎に、ない時も預る時も執はれず、その方法を調べねばなりません。今、建設中です、みんなが行き詰らない土臺をかためてゐるのです。

この生活はどこへ行つても可ならざるなしでなければなりません。

（一四、八、二〇、夜、一燈園に於ける講話筆記）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

光と祈

吉田卯一郎

お光とは――（內在的に見れば）
まごゝろの奥にひそむ
うるはしき光
人間の智慧や理窟では
入り得ぬ所に
燦としてかゞやけるもの
寸隙の中に是非を判じ
やむに止まれぬ心を起させ
良心をも尙不安ならしむ
起信論の眞如も
カントの無上命法も
これをいふのぢやあるまいか

お光とは――（客觀的に見れば）
神や佛―私達のより縋るもの
我々が靈に醒むれば
世の中は其の儘天國淨土
華は降り靈鳥歌ひ妙樂奏づ
されど又更に眼を轉ずれば
此の世は穢土
眞に之れ五濁の惡世
煩惱の炎は燃え
罪は滿ち滿つ
此の穢をお光はすくひ
祈りは淸む

祈りとは
その對象が
淸くなれかしと祈るのではない
淸く又善く美しく
なつて呉れるやうにと
祈る心の根柢には
他の缺點をあばく卑しい心と
罪多き我が身を省みず
我れ善しとする傲慢の心が
ビクツキながら潛んでゐる
要は只
凡ての同胞の罪を負ひ
我が身の不德を懺悔して
「お光」のみ救ひを得んとするのみ
敬虔な心持ちで
合掌すればそれがすべてだ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

道場清規について

松下吉衞

本來、一燈園生活者わ、無相の清規（しんぎ）によつて修行すべきであつて、一々條項を立てゝ、『べし。』『べからず。』お云々するのわ、一燈園の下り坂を意味するとも見られ、またその有害無用お言う識見家もあるでありましようが、これお現實について見るのに、道場としての一燈園わ托鉢修行の學校であるに相違なく、すでに學校である以上、そこに敎育が行われなければならず、敎育わ不德者の私共が扱うとして、明示された準則に依るのが最も過ちお少なくするわけだと考えられます。

此度、東京一燈園の禱建に際して、お光の御前に恭禮し、先達の意お體しまた同人奉仕の實績に察し、自ら揣らずして敢て『道場清規』の草案おものしましたのわ、一つにこの故に外ありません。清規わすべて十章から成り、相談役諸賢の批正お經て漸く出來あがつたものであります。以下、清規各章について少しく卑見の存するところお述べさせていたゞきます。

一、身命財能おお光に歸し奉れ。

一體、私共に私共の物とゆう物があるはずがありましようか？　みんな授かつた物、預つた物でわありませんか。命、何より大切な『命あつての物種』といわれているほどの命！　それすら、如何に思いわずらつても、一日とて生き延びることわ、何人にも叶いますまい。

種々な才能や財物にしてもまたその通りで、一つとして私共の所有してよいものわありません。みんな本體——お光に歸すべきです。

然るに、人間の思いあがりから、所有してわならないこれ等のものを、わがもの扱えにしているので、こゝから、いろ〳〵やゝこしい問題がおこされて來るのだと思います。個人的な苦惱憎惡怨恨嫉妬不平にしても、社會的な資本主階級對勞働者階級の痛心に堪えない鬪爭にしても、乃至わ民族的國際的の戰亂にしても、もし各自が誤まられた所有慾から解放されるなら、問題わ直ちにおさまりがつくはずでありましよう。

所有慾から解放されること、身命財能をあげてお光に奉還すること、一切お捨てゝ無一物に歸することわ、決して容易の業でわなく、最も嚴正な意味に於てわ、或わ人間として出來ないことかも知れませんが、禍の源お斷つ根本的方法がこれをおいて他にないとすれば、私共わ先ずこのことに懸命になるのが第一義でなければなりません。

いわゆる『身お捨てゝこそ浮ぶ瀬もあれ。』で、捨てた後にわ、おのずからなる道がお光から啓示されること、先達の體驗に徵して疑う餘地がありません。

人、道に入るの門わ、捨身沒我大死一番するにあると信ぜざるお得ません。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

二、常に敬虔お念こすべし。

これわ修行者のお光に對する態度お示したので、お光のみ前に、このまゝお、よきもあしきもありのまゝお、我れもなうまかせきり、さゝげつくして、み旨に叶うようよきにはからわせたまえと、虚しい心でぬかつく虔しやかな姿！　これにもまして、人間に許された聖なるもの神に近きものが、又とありましようか？

私共に何程の善事がはげめるかわ覺束ない限りでありますが、せめてこの虔しさだけわ、寸暇も念頭からはなしたくないと思います。

三、互に本具のお光お禮拜し、芳心慈顔愛語お以て相和ぎ、たさい心に叶わざることありこいえごも、我心に執して相裁く勿れ。

前章わお光に對してゞありましたが、これわ人間に對する關係について逃べたものであります。人間に全然の善人がない如く全然の惡人もなく、生れながら賢不肖の別のあることわ事實こしてもそれも程度の問題であり、また生後の生活環境や敎養の如何によつて知的方面にわ可なりな相違も來しますが、人間本具のお光にいたつてわ、何人にあつてもさほど差等のあるはずのものでわないと思います。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

されば、私共わ如何なる人に對しても、何かのはずみでどんな極惡非道なまねおした人に接する場合でも、その人のお光お拜み拜んで拜みひろげるようにしないと、お光の德お蔽うことになります。また、私共わ一寸した事件にあつても、とかく心が亂れ、それが顏色に出で言葉の末にまであらわれ易いものですから、常に心して自分にふれる人達お害わないようにしなければなりません。但し、私わ、胸に陰險な劍お藏しながら溫顏およそおつたり、心にもない巧言お弄せよと、お勸めしているのでないことわ勿論であります。

聖德太子の有名な十七條憲法も『和お以て貴しと爲す。』の句で始まつていますが、實に和ざあうさゆうことが根本問題で、これにわ他の惡お裁いてならないのわ勿論、むしろ進んでその責お分擔するまでの一體感おたゝえているべきであります。

『敵を愛せよ。』とさえクリストわ敎えています。人もしその敵おほんとうに愛することが出來るなら、彼わ何人にも越えた世の勝利者でありましよう。

然るに、私共の實狀わといへば、少しく心に叶わないことでもありますと、江戸の仇お長崎で討つようなまねまでして、自ら省みることお知りません。實に情ない次第であります。

四、不斷の懺悔に住して只管下座お行じ、如何なる苦境に處するもよく安立の工夫あるべし。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

五、偏に報恩の心お持して懸命に奉仕し、一日作さずんば一日食わざるの覺悟あるべし。

この二章わ、共に、私共の托鉢修行の基調的精神であり、同人の奉仕生活の指導原理でありますから、便宜上、一所に述べることゝします。

こゝにゆう懺悔とわ、その人その人の犯した罪とか不德とかに限らず、ひろく社會一體人類全般に對する連帶責任感からそこに行われるあらゆる邪惡執迷苦惱についての滅罪のいのりの謂であつて、これがためにわ、ひとりこれお心に念ずるに止めず、不斷の實生活に具現して、懺悔者にふさわしい最下座に居り、たとい如何に重要な務お預つていようとも、自ら奴僕お以て任ずべきであります。

よく『落ちつけない』といつて托鉢先お轉々する修行者があるようですが、私共のいのりわ、もともと、自分自身お先に落ちつかせるのでなく、『自未得度先度他』にあるのであつて、皆、人類全般と一體たる自覺に立つているはずでありますから、落ちつけない場合にわ、先ず己れお省み足らざるお詫びし、むしろよい修行おさせて頂けるのお感謝し、そこに安心立命お得られるよう工夫するところがなくてわならないと思います。

無の姿でなら、どこえでもきわめて無難にはいれるはずです。零で割るなら、どんな數でも——何億萬でもまた一にみたない少數でも、常に無限大なわけです。人生の幸福わいたる所に見出だされ、つきざる法悅の泉わ脚下に滾々と湧いているのでありますが、我執に靈眼のくらみがちな私共にわ、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

それが悟れないで、あらぬ方に暗中模索お試み、或わ金儲けのために狂奔し、或わはかない榮譽にあこがれて痴態お演じ、こうして幸福お追えば追うにつれて幸福わ影の如く遠ざかつて行く矛盾に、私共わざんなに悩まされて來たことでしよう？　この迷執から私共わ一刻も早くめざめねばなりません。

私共にわ、また、次のような驕慢と謬想とがおきがちです、『自分わ道のために立つているものである。世間の人のようにそんなに働く要わない。世間の人わ慾のためだからあゝ働くのだが、慾お捨てた自分わ恬淡としておればよいのだ。』

何とゆう醜さでしよう、身の程しらずでしよう。奉仕生活わ必ずしも經濟的制約によつてのみ支配されるものでないことわ、わかつていますが、經濟的制約お超越するとゆうからにわ、その奉仕わ精根のかぎりお獻げつくしたものでなければならず、『もうこれ位でよかろう。』などゆう考慮が交ざるようでわ、既に第二義に墮したものといわなければなりません。極樂に晝寢わないそうであります。人類全般の和平を大願としているはずの私共わ、働いても働いても働ききれないわけでわありませんか？　勞農露國ですら、『働かざるもの食うべからず。』の標語お高く掲げております。三度の食おいただく時、『この食お受くべき功德が自分にあるかどうか？』くらい、お互わ省察しませんと、許されないことになるのお恐れます。考えてみれば、皆さんから過分な恩義にあずかつている身ですもの。

六、世相お明了し又自己に猛省し、各自本來の願行に過誤なからんことお期

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

すべし。

如何に奉仕の念が強く旺んであろうとも、もしその人が自分の置かれた所、直面する時代お正しく理解せず、又自分自身ちあるがまゝに知らないなら、折角の願行がとんだ過誤におちいらないとも限らないし、たといそれほどでなくとも、筋ちがいの事柄にかゝわつておりながら自らわ善處していると誤認する場合がまゝありましよう。

されば、私共わ、知識慾お満足せしめる弊おかもさぬ用意のもとに、社會の事象の攻究お不斷に怠らないようにすると共に、自分の長短得失およくわきまえまた日々托鉢のあとお深く省察して少しずつでも御奉公の實のあがるよう、いのりのかたちについて工夫するところがなければなりません。『どうしたら生きられるか』の急迫した問題に直面している現代わ、地の裕であつた中世期に於けるより、特にこのいのりのかたちとゆうことお重要視すべきだと思います。

しかし、それにつけてもほんとうに物事お見わける靈眼の開かれることが第一要義ですから、一行に澄んで我執のとゝのうよう不斷に念願すべきであります。

七、平生簡素の生活に習いて無用お節し、不時非常の奉仕に備え、堅く飲酒、喫煙、貪食、淫行、妄語、好玩、奇矯、粗漫に遠ざかれ。

これわ、私共の平生の實生活についてやゝもすればおちいり易い悪弊お列擧して戒めとしたもの

で、簡素の生活わ或わ私共のよくし得るところか知れませんが、無用お節することわ大變不得手であり、一滴の水、一片の紙も勿體ないことお衷心から實感せず、電燈などにしても甚だ不用意にともしている場合がまゝあるようです。又『坊主の坊主くさきわ云々』といわれている通り、我こそ選ばれたる托鉢者で候といわぬばかりのなりふりわ、心ある人おして顔おそむけしめますから、お互によく氣おつけあいたいものです。

家風の整つた家なら、改めて主人にあうまでもなく、玄關おのぞいただけで、充分そのあらわれがありましよう。托鉢道場お初めとして、園生活者の奉仕するところいずこにでも、水も漏らさぬいりの緊張味お、下駄のぬき方、雑巾のおき方の末にいたるまで人知れずこめておきたいものです。

八、托鉢願行のことわ宜しく當番の指示に從うべし。

修行の實際から見て、また俗諦成就の本願からいつて、修行者にとつても敎團にとつても、在園者とその世話役たる當番との關係わこうなければならぬと思います。但し、當番わあくまで當番とゆう役目であつて、托鉢者としてお光のみ前にぬかつく時、他の在園修行者と一つであることと今更ゆうまでもありません。

九、信施の財物わ禮拜して之れお受納し、卽時當番に託してお光に歸し奉れ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

托鉢修行者に惠まれる供養わ、その個人の勤勞に對する經濟的報酬とわ性質お異にするものでありますから、これお個人の所得扱えにすることわ、お光の冒瀆でなければなりません。一切おお光に歸し無所有に徹した境涯お實證しようとするのが私共の修行の眼目でありますから、この意味からも、供養お私に預らず、當番に信託してお光にさゝげるのが道だと思います。

お光えの供物——世にもめずらしいこの淨財の扱えについて、當番が心すべきわもとよりであります。

十、需品わお光の惠みお仰ぎて當番にはかるべし。

なくてならぬものわお光がさずけてくださると信ぜられます。修行者わ、日用必需の品物についてわ、つゝましく當番にはかられたらよいでしよう。

社會主義わ高くその旗じるしお掲げて『能力に適する生産、必要に應ずる消費』の大文字お鮮かに染め出していますが、いつの日によくこの理想が實現されるか望洋の嘆にたえないものがあります。然るに、そのあらわれこそ貧弱そうであつても、打ちけすべからざる地上の事實として、この理想が私共の無所有不賣の日常生活に具體化しているので、もし謙遜の德お傷けないなら、來りてこの事實を見よと、迷路に立つている人々にわ、お勸めしたいと思います。

しかし、私共のこの生活おどう社會化するか、更にどう國際的に展開せしむべきかわ、決して容易の業でわなく、私共の微力不德お思えば、任重くして道遠く、感慨にたえないものがあります。志お同じうせられる諸賢の懇禱熱禱お衷心から希わずにおられません。恭禮。

(大正十四年晩秋謹記)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

A夫人の實弟Y氏に送る

徳水生

亂菊も哀れに寂れ朝霜を見る節と相成候。皆様には御清祥にゐらせられ候哉又S子様にも御健在に候や御伺ひ申上げ候。さて突然ながら私は今夏問題になりたるA家のことに就き當時A氏の超人的言明に感動いたし又S子様の悔悟更生を冀望し、謝罪復歸、圓満なる解決をお禱りするためにA氏へ不德を顧ず所信を申送りたる事有之候者に御座候。本日別送申上候光誌上「A氏にあてたる」は即ちその寫しにて候へば篤と御一讀を願ひ、愚意の存する所を御了解被下度候。私は前非は各自の過として互讓懺悔し更生されたる聖愛のもとに抱擁結合される事のみが滿心の添禱に他ならず候。是れに對しA氏よりは別箋の如き感謝狀に添へて「ひたすらに淋しき時や秋の雨」の御咏句をお贈り下され候。その後また十日餘を經て(九月二十二三日頃)書面を以てお尋ね致し候へ共、それには頓と御返事不來、實は内心懸念を抱きつゝ十一月十六日に京都より東上いたし候後に右の光誌をお贈り申上げ、重ねて御尋ねいたし候處折返し同封せし如き御返事を頂きし次第に御座候。その文意によれば未だ貴下方に居られるS子様には只世評に脅かされ逡巡の御様子に候が一時の過失は過失として懺悔の力は實に鬼神をして哭かしむる結果を看るに難からざるべく、又今のA氏の御宏量はよく聖愛を捧げて觸れなば燒き盡くさんまでの熱情を示し居られ候に單りS子様には自縛の苦をかこたれるのみか剰へ變態的行動(獨身生活に入るなぞと)を決行なされるやも計られずとは(多少とも眞實とせば)遺憾この事に存ぜられ心からお諫め申上げたき事に候。私の微衷はA氏との信書往復のうちに盡され居り候へば、今は言葉も筆も拋げ捨て、A氏の眞血(A氏よりの書簡)をお送りして貴覽に供し候間貴下よりS子様へ篤と御傳聲下されて充分御反省をお奬め願度候。而して互に深禱よく非を改めて寸時も速く最善の解決に努められん事切望に不堪候。合掌。

追伸

まことに差し出がましく候へども此の問題の最善解決(互讓結合)のための御世話なれば乍不及身を以て奉仕申上げ度候間何時にてもお役に立たせ下さらば難有存候。(大正一四・一一・二四)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

臺灣の秋

すゞき　五ろう

熱國の朝

水牛の横腹に
銀色の陽が
波打ち、
若い糖黍の葉に
爽な風が渡る。

この様な朝に
私が　あなたを
思ひ出して居たと、
どうして　あなたが
知るだろう。

星と芥子

初秋の夜空に
輝く星に　見惚れて居たら
私の心は
無限に擴大して
抑へ切れぬ　歡喜に満ちた、
私は　心で叫んだ
「おゝ、三千世界も
　私のものだ。」

露の深い朝
或る廢園を　彷(さまよ)ふて居たら
足もとに　寂しく實つた
芥子の實が
そつと　私を見上げた、
びつくりして　振返つたら
まあ、何と云ふ驚きだろう！
小さい芥子粒の中に
凝(じつ)と　私が座つて居た。

蒼空と小鳥

廣い廣い
平野を走る
一本の電線に、
一羽のペタコが

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

止つている。

風もない
蒼空を
默然と、
眞黑な小鳥が
背負つている。

私が死んだら

私が　死んだら
何處でも　好いから
野原の隅に
埋めて下さい、
そこで　私は
綠の搖藍（ゆりかご）の樣な
大地に　抱かれて
やがて　その懷に
融け込んで、
永遠に　安らかな
眠に入ることが
出來るでしよう。

私に　どんな墓石も
いりはしない、
大地が　そのまゝ
お墓になつて
吳れますから——
そうしたら
誰も　花を手向けることが
出來なくても、
春になれば
可愛い　菫が
秋になれば
可憐（しをらし）い　野菊が
きつと　私を
慰めて吳れるでしよう。

うれしい　うれしい
ほんとに　うれしい、
こんなに　大きな搖藍（ゆりかご）を
こんなに　廣い遊び場を
そして　こんなに立派なお墓まで
持つてる人が
あるでしようか？

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

光明へ

八田勝三

□

『五千年も前に釋尊が道を説き、キリストが十字架を負うてまで神に祈つても、人類は未だこのやうな苦惱の裡に、蠢めいてゐるぢやないか！』

斯んなことを云つては、少さい乍ら精進しやうと思つてゐるものを、時々つゝく人がある。その度ごとに私は答へる。

『私達は出來るだけ自分自身を卑しめないやうに致しませう。如何に歩みは遲くとも、諸聖賢の敎へによつて、又自分に惠まれた魂の成長に隨つて、ゆがみなりにでも此處まで辿りついたのです。何時達し得るか、或ひは永久に摑み得ないまでも、兎も角より善き世界への進化の道程にあるものとして、現在を肯定しませう。時には明らかに退歩としか思へないやうなこともあるかも知れない。だが總和はきつとプラスになるものと信ぜずには居れません。それは餘りに虫の好い考へ方かも知れませんが、そう信じないで何處に生き甲斐が見出されませう』

□

名もないせゝらぎの音に、心をすまし得るものは幸ひだ。その音は單純だが、人智では眞似の出來ない微妙な音樂だ。そして本當に心の穩やかな時にのみ、その天籟のひゞきを攝取することが出來る。

□

人生は『？である』からこそ面白いのだ。次の骰子の目に何が出るか分つてゐるやうなものだつたら、私のやうなものは退屈して了ふに違ひない。同時に全智全能でない所に生きてゆく興味があるのだ。その上一人〱が違つた道を歩んでゐる所に、此の世に遣はされた最も大きな喜びがある。お互に自分の持場〱を固めやうぢやないか！人々は未だ本當に自分自身を知

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

らないと共に、他人の生活に對して自分の尺度をあてはめやうとしすぎて居やしないか知ら？

□

實兄に姦せられた娘、從兄におかされたひと、看護人の慰みになつた女性！私達の小さなグループだけにでも、此のやうな惱ましい過去を持つた女性を見出しては、男性として一體如何お詫びをしてよいのかお詫びの言葉に苦しむ。不可抗力に近いこのやうな出來事に對して、彼女達が一生涯に感ずる痛手は餘りに慘酷だ。たとへ此の生活によつて、更生を信ずるも、身心に深く刻まれた烙印は感情の上では、消ゆべくもない。兩性生活が正しき位置に置かれるためには、女性自らが雄々しく立上つて、精進して貰ふ外ないが、罪を感ずる男性は、同性の動物性を出來るだけ、看視して、過まちの少なきやう祈り、且つ懺悔すべきである。

□

一日比叡山の黑谷に、法然上人の遺跡を訪ね、廿六年間修業の所と承はつた。又四五日前、生徒さんと關西旅行中に、園をお訪ね下つた成蹊女學校長の奧田先生が

『天香樣が新生涯におたちになつてから、幾年になりますかね』とのお尋ねに廿四年目なる旨申上げたら

『矢張り廿年はたゝなくてはね』との御話だつた。稽古事でも十年はかゝる。せめて園生活も十年たゝなくてはなど、一生かゝつても出來上る見込みはないが、假りに標準を十年としてゐたのを、如何やら廿年を最初の目標にしなくては駄目だと思はれ出した。

□

若王子神苑の朝まだき。風もないのに楓がはら〳〵と散る。梢の紅葉を愛でて酒酌む人は訪づれるが、箒のさきに集つてゆく落葉が、未だ露を帶びてゐる色の美くしさを知つてゐる人は少ないかも知れない。その露の儘のをそつと托鉢着のかくしに藏ひ込んでおいて、遠くへ御苦勞下つてゐる同人の所へ東山の秋を報せるよすがにする。此れが此頃の私の樂しみの一つだ。

—大正一四、一一、九—

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

この頃の私

樋口地笑

天香様お變りは御座いませんか。私は今こんな風になつて歩ませて頂いてゐます。

兩親におまかせするといふことが私の一の路として、その後引つゞき歩ませて頂いてゐるところです。私は兩親にこんなことを申上げました。

『私と、私の妻子を、あなた方のお氣持の一番落付かれるように使うて下さい。たとひ日雇でも、月給取でも、それでまた百圓に價しようと、壹錢に價しようと、それはちつとも構ひませぬ。とにかく、あなた方の御氣持がしつくりするやうに使つて頂けば有難いのです。若し何も仰言らず、御用のない時には、私は、私共の隣人、兄弟達を見舞つて、お手傳ひにゆかねばなりません。もしまた私等の此家にゐることが、皆様のさわりになるようでしたら、何時でも去らして貰ひます。いづれにしても、よろしく御指圖下さいませ。』

昨年は、御承知の通り、處々因縁のある家に托鉢させて貰つてゐました。家にあつては、どうしても、自他共に托鉢の氣分がはつきり出來ない勝ちであります。けれど、幸ひにも私は、家にあつて、一日と雖も、自分から金策のために出掛けたり、また親達の氣持に遡ふやうなことが無かつたことを、せめてもの喜びと思ふております。

ところが今年になつて、小作人が一人減りました。親達は私に『作らないか』と相談されました。私は

『そんなことは何も考へて居りません。たゞ私

は一家中みんな仲よく樂しく暮さして貰ふためには、どんな事でも忍びます。私の心も體も、すべて、あなた方にお任せしてゐるつもりですから、どうぞよろしく。』すると父は
『ぢやァ作つて貰はう。今年は經費がかゝつて却つて損かも知れないけれども………とにかく百姓は百姓として土地を耕してゐるのが、一番よいことのやうに思はれるから。』
母はさすがに女の事とて、いさゝか不安の容子でした。他へ嫁いでゐる姉をたづねて相談に行かれました。
やがて歸つて來て
『お父さんも、作太郎も、それでよろしかつたら………』と申されます。
『私は、別に善いとも惡いとも思ふてはゐないのです………』
まあ、こんな話で、とう〳〵私が作ることになりました。けれども念の爲めに、
『お父さん、若し農作するとすれば、それはお父さんが、すべての御計畫なすつて、そしてお作りなされるのですか、それとも亦一切を私にお任かせ下さるのでせうか。その邊の區別を判然して置かないと、お互に仕事に責任がなくて旨くゆかないと思ひます、如何なものでせう。』
『それア無論お前に賴んで作つて貰ふ氣だよ。俺はまで自分でやつた經驗がないから。』
『では私もそのつもりでやらして頂きましょう』
斯樣な譯で今年からまた私は農作に從事することになりました。
天香樣　私のいま歩みつゝある途上に於てその陷り易き、はた又、陷りつゝある、恐るべき穽について御容赦なく指摘し且御みちびき下さいまして、未然に、弱い危い私を救つて頂きましたら、どんなにか有難いことで御座いましょう。何卒よろしくお願いたします。合掌。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

上海より

安藤州一

秋氣佳麗の候、皆様御安康にて無我の境を求め居らるゝ事と存じ候。捨てゝも〳〵自我の心は湧出でゝ困入り候。小生儀去る九月二十一日朝、南嶺丸にて神戸出帆、海上至極平穏にて二十五日天津に上陸いたし候。出帆の前夜、燈影塾の宇戸様花束を持ちて神戸の旅館を御訪下され御芳情まことに難有奉深謝候。旅行中最も強く感ずるは我が同胞の親切の情に御座候。

天津にては九月三十日まで滯在いたし候。當時新聞紙にて天香様朝鮮總督府の招請に應じ、彼地にて奉仕生活なされ候由承り及び候。然るに今日鹿ケ谷より天津別院に宛てられたる消息にて、始めて各位の近況を知り、第二隊が大連に向け御出發の事を承知仕候。小生は十月一日北京に入り申候。途上、駱駝が農夫に曳かれて、柳の枝の如き物を背負ひ居るを見、非常になつかしく感じ申候。呑氣なやうな彼も、矢張それ相當の仕事をするかと思ふた時、仕事のない人は不仕合せで、仕事のある人は如何に心が慰めらるゝかと存じ申し候。四日には萬里の長城に登り、心ゆくばかり、蒙古より來る雄風に對立して、夕陽正に傾かんとする四邊の雄大なる光景を眺め申候。此邊一帶、駱駝の多いのと山羊の群をなせるには驚き申候。小生は生れて始めて驢馬にて旅行を致し候が、驢馬が山羊の群中を突貫して進むに、兩方ともに畏れず肩と脚とを摩合ふて歩む姿は、一寸內地では見られぬ光景に御座候。それにもまして可笑しきい、蒙古方面より北京に運ばるゝ鷹に御座候。鷹の眼には皮にて眼かくしを施しあり候。それ

が爲め籠の端に二十匹ばかりも堅く取付いて逃去りもせず、自分の身を賣らるゝ途にありながら、堅く籠に取付て離れぬ有樣に御座候。人間も自由にあるべき身を持ちながら、智慧の眼がかくされて居る間は、物質の籠に取付き所有觀念に囚はれて、次第に苦境に近づくを知らざること鷹と相似たるものと存じ候。

十二日直隷平野を去りて津浦線にて山東省に入り濟南府に下車仕り候。此地在住の敎育者や信徒の御方々に迎へられ、鶴屋といふ旅館につきて休息を得申候。『人は愛するか、愛せらるゝに非れば、人生に活くるの餘地なし』と聞き及び申候が、海外にての唯一の慰安は日本人と相語り慰めらるゝ事に御座候。十四日に曲阜と申す處に來り候。これは往昔(むかし)の魯國(ろのくに)にて孔子の御廟のある處に御座候。然るに此日は陰曆八月二十七日にて孔子の御誕生日に當り、一年一度の大祭のある最中に來詣し得たるは、誠に偶然の奇緣に御座候。平素論語を愛讀し居たる餘德かと喜び申候。此日は支那全體の休日に有之、山東督軍は軍隊を率ゐて參詣いたし候ため、途上の馬車や人車は皆徵發せられ、僅かに一輪車を發見して是に二人乘り、支那人が後より推して三里の平野を進みしは仲々の困難なりしも、一生涯のよき思出でと存じ候。

十五日には齊の泰山に登り申候。孔子も『東山に登りて魯邦を小とし、泰山に登りて天下を小とす』と申されし由、人は職業は何を撰んでも宜しいが、着眼點だけは高處に置きたきものに御座候。物質と金錢が無くては實際に人生が渡られず、されど是に執着すれば、得られざる者は怨み、得たる者は失ふことを恐れ、失ふたる者は悲觀いたし候。要する處は、財產を持つて居ても一時の預かり物と觀念し、有益に使

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ふ途あらば是を活して使用し、因緣つきて無くなりたる時、後を追はざるの心になり度きものに御座候。小生は一燈園の生活にて執着が少くなり、無我の氣分さへ養成し得れば財產を持つことは更に差支無之事と存じ候。此處泰山天下を小とするの膽力を養ひ出し度と存候。

十六日夜汽車にて濟南を去り申し候。津浦線にて南京に出でんかと存せしも都合にて青島に出で候。後にて聞けば南京方面は此時既に南北兩軍の衝突有之汽車不通となりし由若し此方面に進みしならば戰爭の只中に立往生を致すべかりしに青島に出てたるは、誠に偶然の幸運に御座候。青島にて驚く事は三十年前は寂寥たる一漁村たりしに、獨逸の占領に歸してより、道路を開き樹木を植えしため、今は日本內地より見事なる櫻樹の繁茂を見受け申候。孟子が『吾れ善く浩然の氣を養ふ』と申されしことと思ひ出されし候。養へば禿山も青々たる深林となり、養はざれば靈活なる人心も次第に枯死いたし申候。されど獨逸が二十年の苦心も、世界戰爭に於て權力强き者の爲めにこの青嶋も全く失ひ申候。阿含經の中に、財に五つの畏れあり、一には火難、二には水難、三には盜難、四には權力の難、五には惡子の難と開き申し候が、獨逸の財產も終に權力者のために失ひ申し候。ハンネッケン氏は明治二十七年には支那の顧問にて、目下引上中の豐嶋冲の高陞號に乘込み居り、其後天津に在りて石炭商を營み三百萬圓の財を積みしに七十餘才になりて世界戰爭起り、財產全部を支那政府に沒收せられ申候よし天津にて聞及び申候。財を持つ稽古も宜しきが、之を失ふ覺悟も平生の時必要と存じ候。一燈園は財產を亡くしたる時の修練を致す場所と存じ候。思想の上にては斯樣の事は分り切つて居れど、實際に

財産を手離すことは仲々の困難と存じ候。本來無一物の修練は、實際の無一生活より得らるゝ事と存候。

二十一日青島より海路を經て上海に渡り申候。目下南北抗爭のため汽車自由に通ぜず困り居り候。然るに抗州行の汽車だけは通じたるを以て、去る二十八日夜出發、日本人一名同行、同文書院より雇入れたる支那人の案内者と三人にて出かけ申し候。抗州城中の西湖は聞きしに勝る好風景に有之、岳飛の墓を弔し、背後の棲霞嶺に登り、浙江省の平野を眺めし時、高靑邱の『樓霞嶺上今回首。不見諸陵白露中。』といふ詩意も心ゆくまで玩味いたされ申し候。此地より錢塘江を渡りて餘姚に出で、陽明先生の生地や遺跡を尋ぬる積りなりしに領事館より注意あり、その方面は旅行地帶己外にして、特に數日前より戒嚴令を布かれ、拉夫と稱して强制的に壯丁を拉し來りて軍隊に編入し始めたれば、一往上海に歸り、更らに海路より寧波を經て餘姚に向ふが宜しからんとの御注意有之、小生共も其旨を領して三十日夜終に上海に歸り申し候。然るに今朝の新聞を見れば、過日英國軍艦が二隻驅逐艦六隻を從へて象山灣に入り來りしに、南軍砲臺より信號を以て何國の軍艦なるかを問合はせしに何等の返事なかりし爲め、さては北軍の襲來にて南軍の策源地を突く者と合點し是を南軍參謀府に報告せし爲め、南軍は大に驚き急に兵力を集中し、戒嚴令を布き拉夫を始めたるものにて、昨日に至り英國軍艦たること、英國領事より南軍に通知あり、參謀府にても始めて安心して拉夫を解き、金錢を與へて自由に歸り去らしめたりとの事に御座候。

是につけ、思ふに虛僞ほど畏ろしきものは無し、他日浮雲は晴るゝにしても一時人に迷惑を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

與ふること不尠と存じ候。小生も案内者を雇入れ充分準備して餘姚行を思ひ立ちしに、この英國軍艦の誤認よりして戒嚴令と成り、旅人の檢査嚴重となりたる爲め、終に目的を達せず上海に歸り來り候、虚僞のことを言ひ立て書き立て、人の惡口など申すことの世に害を及ぼすことの大なるは是にて思ひ當り申し候。人に迷惑を與ふる而已ならず、其身は必ず子孫までも惡報を受くる事と存じ候。『君子は人の美を成し小人は人の惡を成す。』と聞及び候が、たとひ惡事ありても是を言ひ立つる必要は無之に、まして無き事まで言ひ立てゝ人の害を爲すこと淺ましき業と存じ候。されど『無我法中ては能罵所罵ともに無し』と聞き及び候へば、畢竟解脱の道は自分が無我の境地に入るか否かに在る事と存じ候此處容易ならざる苦練を要する所と存じ候。一燈園の下足を直す修行も、下坐に就く練習も、若し心裡の我慢の城郭を破らずば、修行の效果少かるべく候。内外より修鉢せらるゝ事肝要と存じ候。

小生は月の八九日頃より長江を溯りて廬山に登り、其上にて海路より寧波に赴きたく存じ候も、是は只豫想に過ぎず、實行いたしたる上ならでは何事も不明に御座候。若し其うち南軍が徐州より退却でも始めて、揚子江を横斷せられなば、水陸ともに旅客の通行は愈々困難と相成べく候。時候漸く寒氣に向ひ候折柄園員御一同の御自愛を念じ入り申候。草々。

（大正拾四年十一月二日夜）

〇本號表紙題字——は總持寺開山常濟大師眞筆『總持寺中興緣起、一名瑞夢記』中よりいたゞきました。この眞蹟の終りに元亨元年六月十七日、瑩山紹瑾記錄とあります。本月は同大師御遠忌に當るとのことです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

未明の先驅者（三）

水上鐵治郎譯

四　ブラシキ

『勞働運動の先驅者』の事業といつても、今日では比較的容易であるばかりでなく、事實時にはそれが爲めに異常の聲名を博することさへあるのであるが、初期の運動時代にあつては、先驅者の末路は破滅、窮乏、孤獨に外にはなかつたのであつた。

マッチニ、ルイ・ブラン、ブラッドラフ等の自由主義的乃至は共和主義思想の紛糾錯雜せる時代にあつては、何人かが率先して、備さに啓蒙闡明の勞をとり、以て運動の正しく赴くべき針路を定むる任務に服さなければならないのである。理論の方面に於て、この任務の大部分を果したのがマルクスであることは、今更云ふまでもない。

しかしながら兵馬の間に馳驅し、鐵火の巷に身を曝露するとも云ふべき實際運動の方面に於けるこの任務は、フランスでは、大部分ルイ・オーギユスト・ブランキ唯一人が之に當つたのであつた。ブラシキこそ、實に當時の自らも悟り得ず、人をも迷はせつゝあつた自由主義派の指導者及び團體の手から勞働者階級を奪還してその自主と獨立とを自らの實行を以て敎示したものであつた。

この偉大なる功績の報酬として彼が贏ち得た

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ものは、殆んど終身に近き禁獄の刑であつた。一八三〇年以來彼は秘密結社を組織して、それによつて王位を廢して共和國の建設に努めたのであつた。しかしながら、當時斯くする事が、何故に勞働者階級の利權を伸張する所以なるかを明らかにせるものは、寥々として稀有であつた。斯くてブランキは一度囚はれ、二度獄舍の人となり、遂に一八三九年には終身禁錮に處せらるゝに至つた。

歳月は無言にして流れた。妻は逝き、子は保守派の親戚の『保護』するところとなつた。物質的繫縛を漸次に脫却し得た彼の心を煩はすものとては、今では宿事の大志のみとなつた。革命！　この一事こそ彼を熱狂せしめたものであつた。それは熖々として何物をも燒盡さずんば熄まざる烈火の如き執着であつた。

次いで一八四八年突如として彼は釋放の身となつた。ルイ・フイリツプは王位を逐はれ、共和國が宣言されたのである。ブランキは匆忙としてパリーに赴いた。

然しながらブランキと數百萬のフランス勞働者の前途には陰慘なる失望の外はなかつた。共和國の世となつた。されど、彼等の運命には何等の變化はなかつた。雇主は、依然として暴虐であつた。政治上の自由もいつしか昨日の夢と消えた。新聞紙は發行を停止され、政府に救濟を哀願したパリー勞働者は銃火の下に屍を街頭に橫へた。

頽廢に頻せる共和國は、遂にナポレオン三世の掌握するところとなつた。ブランキは、この變轉の過程に反對した科に座して、四度獄裡の人となつた。

やがて晴天白日を仰ぐを得たブランキは再び潛行して運動に從事した。彼の武裝せる秘密結

社は、新帝國にとつては一大脅威となつた。しかしながら今では彼の志すところは共和國建設ではなかつた。彼の目的は社會主義であつた。當時彼が劃策した大事業こそ、やがて六十年後のロシアに於て實現せられたる『無産者獨裁制度』であつた。

普佛開戰と同時に、かねての計畫を實行すべき時機は到來した。ナポレオン三世の軍敗れ、衆望地に墮ちたが、輿論は徒らに囂々として、敢て帝位を逐はんとしなかつた。セダンの敗報一度傳はるや、ブランキの率ゆる精鋭は蹶起した。號令一下狂湧奔騰する潮の如き群集は、嚴として亂れず、粛としてその命ずるところに從つた。交戰數合、警官隊と軍隊とは忽ちにして敗れ、議會は占領され、共和國は宣言された。フランス帝國は一次の夢にすぎなかつた。

一方、共和主義派の普佛戰爭中に於ける活動は、一八四八年の際と些も變らなかつた。フランスの遂に敗るゝや、ブランキは、悄然としてパリーを去つた。その後又もや獄窓の人となつた彼は、やがてコンミユンの亂（之こそ彼の事業てあつた）の勃發した時は、徒らに獄裡に髀肉の嘆をかこつより外はなかつた。統制者を失つた彼の一味は、失敗に失敗を重ねた。コンミユンは斃れた。しかしその後數ヶ年彼は獄屋を出づることを許されなかつた。

やうやくにして釋放された後間もなく一八八一年、たとへそれは失敗に終つたとしても、とにかく爲すべき任務は果して、彼は死んだ。彼が熱望した革命は來なかつた。又來べくもなかつた。しかしながら、少くとも、彼は之だけはなしとげた。即ち、勞働者とその主人とを分離せしむることは。彼こそ、誠に經濟的虐政を震撼した第一人者であつた。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

英國社會運動史（二）

松下吉衛

三『靜かなる暴風』

西曆一千七百六十九年　試みに、この年を、世界年表でくつて見るのに、我が國では、後櫻町天皇の明和六年に相當し、德川十代將軍家治の治下であつて、賀茂眞淵・青木昆陽・老中阿部正右が歿し、天文方佐々木秀長が曆書を獻じ、又、農民の徒黨禁止令が發布されてゐる。支那では、淸の高宗の乾隆三十四年に當つてをり、『大學士傅恒、緬甸（ビルマ）を征し、緬甸これより朝貢す。』と、特筆してある。それから、西洋の部を見ると、近世の英傑たるナポレオン一世及びウエリントン公が生れてゐる。

然し、かうした國家の興亡、英傑學徒の生死等は、人類の社會生活の歷史から見て、この一千七百六十九年といふ事を、殊更に特色づけてはゐない。吾等のこゝに最も重要視すべき大事件と考へるのは、かの有名なワットの蒸汽機關が、正にこの年を以て、特許を得たことである。

卒然として觀ずるなら、その初め、僅かにコルンウオールの錫鑛に於いて排水用に供せられたに過ぎないこのワットの蒸汽機關が、後來人類社會全般に亘つた大變革の導火線たる使命を擔つてゐたこ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

とを誰か豫想し得たらう？

しかも、この年代を區劃として、諸種の重要な發明が相次いで行はれたが、産業革命の烽火たる四大發明といはれる、千七百七十年ハーグリーブスが特許を得た紡績機、千七百七十一年アークライトが發明した紡績機、千七百七十九年クロムプトンが新機軸を示した紡績機及び千七百八十五年カートライトが發明した織機に對して、その動力を供給し、實用上の效果あらしめたものは、實にワットの蒸汽機關そのものであつた。更に、これが汽車汽船等に應用されるに至つて、道具時代去つて機械萬能の新時代到來し、手工業の破壞となり、工場生産の勃興となり、婦人問題の發生となり、人口都市集中となり、農業の衰頽となり、商業主義の横行となり、資本家勞働者の階級的對立となつて、玆に社會は未曾有の大變革に遭遇したのである。

機械の魔力　げに驚歎すべきはこの機械の魔力である。一度それが産業に應用せらるゝや、社會の生産力は幾百千倍され、歴史あつて以來人類が數百萬年を費して漸く到達し得たより以上の進度を僅々數十年の間に實現したのである。しかも、吾等の怪しまざるを得ないのは、その結果が一般民衆の生活に幸せずして、反つて隨所に失職者の續出を見、一方に多數の無産勞働者の發生を餘儀なくしたと共に、他方少數の資本家の掌中に極端な富の蓄積を可能にし、社會生活全般を不調和極まる狀態に陷れてしまつたことである。

かくて、今や、勞働者の資本家に對する隷屬は殆んど絕對的となつて來た。これまで生産要素の首位に置かれたゐた成年勞働者も、人間の手を單なる附屬物とする自働的な機械にその地位を奪はれ、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

最早、彼等は身體的にも精神的にも人間扱されず、彼等と資本家とをつなぐ唯一の紐は、たゞ金錢の受渡といふことになつてしまつた。されば、自ら筋肉勞働に服することなく又親しく工場に臨むの要さへなくなつた資本家の目には、婦人幼童の勞働力こそ、例へば熔鑛爐を焚くに用ふる骸炭の如く、機械運轉の附屬物として最も安價な商品と見えたのである。

初期に於ける綿糸紡績機械は裝置簡單にして小型のものであつた。之れが取扱には、柔軟な幼童の指が最も適當であり、また力織機を操縱するには婦人の力で充分間に合つた。かうして幼童は新たに雇傭され、成年勞働者は婦人に代へられた。また年々減價することの速かなるに加へて莫大な投下資本を要する機械を休止しておくことは非常に不經濟であるとの見地から、五歲六歲の勞働兒童も、早朝から寢床を追び立てられ、監視者の鞭の痛さに、一日十二時間乃至十五時間の長きを强ひて就業させられた。

而して工場內に於ける勞働者の生活は殺風景極まるものであつて、就業にも食事にも起床も睡眠も一切が振鈴の合圖によつて機械的に行はれ、何の情味も慰籍も見出だされなかつた。飽くことを知らない營利の念は更に種々な社會的野望と享樂的生活とに刺戟されて、當時の中流乃至上流英人の思想と感情とを支配した。遠隔不案內の市場に製品を供給する工業の無政府的狂熱は、今日苟くも勞働に耐ゆる凡ての者を雇傭したかと思へば、明日忽ち彼等を失業者の群に投じて顧るところなかつた。妻と幼童とに依つて置き替へられた父と青年、機械番人に依つて其地位を奪はれた諸種の手工業者が續出して、貧窮者の大群、產業豫備軍の衆團は、非常な速度を以て增加して行つた。彼等の群は不景氣

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

に遇ふ毎に、饑餓と無智との爲に回復の望みなきまでに頽廢しきつた老幼男女の勞働者を更にその列に加へた。又景氣がもち直すと、資本家はこの新興無產勞働階級を搾取してあますところなく、最低生存費にまで賃銀を低下せしめ、その家族全員を擧げて資本家のために勞働力を提供せざるを得ざらしめた。ランカシャア及びヨークシャアの工場地、北部及中部地方の炭坑及陶業地に於ては、資本家は、勞働者の勞働力のみならず、その消費をも支配せんとする貪慾を起し、家主となり商店主となつて食糧品の價格と長屋の家賃とを一定して、これ等を勞働者の每週の所得から引き去つた。

『英國工場法運動史』の著者は書いてゐる、『勞働兒童は、粗惡至極な殆んど豚の飼料と選ぶところのないやうな食物を供せられ、又その寢床は數人の幼童共通につかはせられるので、嚴冬の候にも冷えたことがない。逃走しやうとして捕へられた者は、足に鎖をつながれたまゝ働かされ、睡眠時にもとかれない。死亡者は夜間ひそかに葬られ、夥しい數の者が自殺を遂げて居る。』と。

後年、專門家の鑛山調査の結果、明かにされた所によれば、當時、五歲の幼童さへ使役されてゐたことが、蔽ふ可らざる事實であつて、鑛坑の高さの如き僅かに二尺にも足らない作りであり、十歲内外の者すら、立つて坑内を營むことが出來ないため、裸體となり腰に鎖を附け匍匐してトロッコを引いたのである。

ギビンスも『英國產業史』に下のやうに記してゐる、『工場主が勞働者を求めるには、英國の各方面から、敎區の貧民を狩り集めた。それらの貧民は、丁度奴隷賣買者によつてアフリカの市場でなされたやうに、その身長體力等を細かに檢査され工場に送られた。二十人の健體兒童につき、必ず一人の

白痴兒を附隨させる制度が行はれた。これらの不幸極まる白痴兒の運命は、他の兒童に比べて、一層悲慘であり、その末路は何人にも知れなかつた。勞働はあらゆる苛責を以て强制され、遂に疲勞の極、倒れるに至つて漸く中止されるのが常で、晝夜繼續して就業十六時間に亘ること多く、日曜日でさへ機械の掃除に使役された。』

これを一般の經濟界について見るのに、十八世紀末の英國は、連年の戰爭又は戰爭再發の風聞の爲め、軍需品製造、運送業に關するものゝ外、産業は非常に不振であつたのに加へて女工勞働兒童が新に激增した爲め賃銀の如き下落の一方で、熟練勞働者すら尙一週十八志乃至二十志より支拂はれず、普通勞働者は、通例十志乃至十二志を平均とし、更に地方の農業勞働者に至つては、漸く六志乃至七志を得られるたに過ぎなかつた。しかも勞働時間は多く一週七十二時間乃至八十四時間以上にものぼつてをり、六十時間にとゞまるものは、僅々建築業機關業等に過ぎなかつた。

民衆は、勞働者は、かくの如き虐使かくの如き慘狀を、どうしてかいつまでも坐視するに忍べやう。かくて、生活の脅しにあつて、

人間性の叛逆 はいたましくも、最初、直接、機械そのものゝ破棄乃至廢止に向つて行はれた。職工及小雇主によつて企てられた、新式工場に對する襲擊の報は諸方より頻々として傳へられた。下院は、しばしば新機械の使用禁止、徒弟七年々期制の强制、徒弟數に對する舊制限の維持等の、賠償的要求の請願に接した。下院も、その窮狀を救濟せんとして充分の誠意を示し、調査委員會を組織した。この委員會に雇主側から提出になつた新機械なくしては增大せる輸出業が阻害されること、新製

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

造法たる機械の操業はよく數ヶ月にして習熟し得ること、徒弟數を二人若しくは三人に制限するのは工場實際の運營に適合せぬこと等を立證した夥しい證據書類に對しては、職工等に可なりな同情をもちながら、彼等の請願を容れることは、委員會としてどうしても許されなかつた。かくて當時の激變せる經濟上の事情に如何にして適應すべきかを知らなかつた職工等の生活上の苦痛は、曾て如何なる階級も經驗したことのない激甚なものとなつた。しかも、政府は、産業の新形態に適合する何等の政策をも採用しやうとせず、中世紀から殘存し來つた諸法規を廢棄しながら、新形態の下に、勞働者の生活標準を如何にして保持すべきかの問題には一指だも染めず、第十九世紀に至つて工場法の方策が發見されるまで無解決のまゝに之を捨てゝ顧みなかつた。一七七六年に刊行されたアダム・スミスの名著『國富論』も、當時の政治家の眼には、經濟學の新學説としてよりは、寧ろ、彼等が既に經驗に餘儀なくされて到達して居た實際的結論を、たゞ整然たる形に概括したものと映ずるに過ぎなかつた。産業の新經營法の中に莫大な利源を見出した資本家等は、その知識的乃至道德的是認として、この經濟學説を忠實に信奉した。

呪咀の叫びは、しかし、遠からず起らずに居なかつた。

一七八四年、ラードグリッツフの紡績工場に腸チブスの發生を見るや、同地方に於ける勞働者の生活が漸く社會の注目する所となり、遂に醫師パーシバル（Percival）が奮起して實地調査を試み、腸チブス蔓延の原因は、工場勞働者の非衞生的生活に存し、勞働時間の極端に長いことがその主因であると斷定した。その結果、數種の改革案が議會に提出されることゝなつた。工場勞働問題の公に論議され

た最初は、この時である。

次いで企業の中心地マンチエスターの醫師エイキン（Aikin）も『勞働兒童害毒論』（一七九五年）を著して大いに天下に訴ふるところがあつた。

又一八〇一年に、ジユーボーと呼ぶ一工場主が徒弟を虐待した廉で罰せられたが、その判決文中に次のやうな一節があつた。『若し工場主にしてこれらの兒童のために、營業の利益をあげ得ないといふなら、予は言はんとする、營業は單に利益のためにのみ行はるべきものでなく、若し然らずとすれば、寧ろ社會の爲めに之を廢止すべきである、と。又、これらの兒童の後見者まで工場に使用されるのでなければ、兒童の處置をつけることが出來ないといふなら、予は又言ふ所あらんとする、一人として顧る友のない所に、これらの兒童を送つて、虐待と疾病に曝す如きは、許し難き罪惡である、と。』

翌一八〇二年には、博愛家サー・ロバート・ピール（Sir Robert Peel）宗教家ハナー・モーア（Hannah More）等の盡力の結果、徒弟の健康風紀に關する條例（Health and Morals of Apprnntices Act）が制定になつた。これ實に英國に於ける新時代の勞働立法の先驅たると同時に世界最初の工場法である。その内容には、九歲末滿の徒弟の採用を禁止すること、一日の就業時間は十二時間を越えてはならないこと、徹夜業は特定の時期に於て廢止すること、讀書算術の教授を爲すべきこと等が規定された。尙、この法律は、この後、一八一九年、一八二五年、一八三一年、及び一八三三年に改訂されて漸次完全なものになつた。

凶作と、一七九三年乃至一八一五年の長い戰争との爲めに醸された異常の慘狀は、就中、綿絲紡績

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

工組合をして、斷えず上訴請願の擧に出でしめた。十九世紀初頭、ランカシャア、及びグラスゴウからの下院あての請願は實に頻繁を極めたが、何れも賃銀の下落に窮して、請負仕事の法定賃銀率等級及び徒弟の制限についての要求を反復したものであつた。織機工の如き、一八〇八年には、十年前の賃銀の三分の一强しか得られなくなつたので、最低賃銀率の公定を下院に要求したのであるが、下院委員會は之れを以て『原則として全く許し難』きものとし、『恐らく如何なる方法によつても到底實施する見込なく、若しこれが實施を見るやうなことがあるなら最も恐るべき結果を生ずるに違ひない。』といふ理由で、その提案を全然しりぞけてしまつた。茲に至つて、自由放任主義は、新經濟政策の指導的原理として、完全に英國々會の受用する所となつたといふことが出來る。

かくて、絕望的にされた勞働者は、新法律の獲得によつて彼等自身を擁護せんとする空しき努力の代りに、せめて現行法律の庇獲を受けることに、一縷の望みを繼ぐ外なくなつた。

西部英蘭の織工は、一八〇三年、現行法律に抵觸してゐる雇主を相手取つて訴訟を提起するために、ヨークシャアの同職者と相提携して立つた。然るに、議會は、急遽、雇主をして處刑を免かれしめるために、特別の法令を通過させて、その出身を挫いた。

グラスゴウ市の木綿織工は、四五年に亙つた對議會運動の後、賃銀率を定むべき權限を裁判官に賦與する法律に、最後の望みをかけた。然しながら、雇主側の委員と、標準賃銀率を協定せんとする相談が、圓滿に運ばなかつたので、全英國の木綿織物地方の織工は堅く結束してラナアクシャア年四期州裁判所に訴訟を提起した。訴訟は幸ひに彼等の勝利に歸した。敗訴した雇主側は、一八一二年エヂ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ンバラのスコットランド高等民事裁判所に上告した。その判決は、第一審通り裁判官に賃銀率を定むべき權能があることを正當とした。雇主は遂に訴訟から手を引くの外なかつた。しかし、織工等は、その提案せる多くの賃銀率を、一々立證すべき證人を立てるのに、實に莫大な費用を要した。百三十人からの證人の證言を聞いて、裁判官はその賃銀率の正當であることを宣言はしたが、之を實施すべき命令を遂に發しなかつた。若干の例外を除いて、この三千磅を費して織工等がかち得たといふ賃銀表を、雇主側は採用することを拒絕した。是に於て、同業未曾有の大同盟罷工が企てられ、カアリスルからアバアヂインまで織機一つ運轉せず、四方の織工は殆んど一齊に仕事から手を引いた。かくて三週間に亘つた罷工の後、雇主側と織工側と各會見の準備中に、突如、罷工委員等は警官の爲めに捕へられ結社罪として起訴されてしまつた。そして、判決の結果、五人の首領等は四ヶ月乃至十八ヶ月の禁錮に處せられ、打擊の及ぶところ、彼等の團結は破られ、同盟罷工は崩され、彼等の運動は茲に大頓挫を來さしめられた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

鹿ケ谷だより

無庵

◆十月一日　くもり　國勢調査日である、准世帶在園者三十一名。今日から石長さんが山崎さんと代つて典座寮を受持つて下さることゝに成つた。柴田さんは靜岡みどりの里より御歸園。石川三十雄さんは暫らく郷里鹿沼へ御托鉢なさる。

◆十月二日　はれ　朝四時から一同洛東若王子神苑に托鉢、境内を淸めさせて頂く。燈影塾からも皆様お出かけ下さる。九時同人會を催す。福田、園の結婚問題、光の郷建設について、祈りと智的教養など、諸種の問題について熱心に御研究下さる。

夜は裏庭に莚を敷いて、今度滿洲行の方々の送別を兼ねてお月見。勝淳さんもお越しになり、おはぎの御馳走にレコードコンサート十八番なども出て、まことに樂しい一夜であつた。

◆十月四日　はれ　飯塚さん脚を疾みて大阪より、東海林さん紀州より何れも御歸園。森下さんは大津市藤尾に、相賀さんは今晩夜行で東京「愛の家」へ向け御出發下さる。

◆十月五日　あめ　『一燈園だより』の謄寫に八田様だち大車輪。灯し頃やつと刷上つた。

◆十月七日　はれ　今朝第二次渡滿の一行、東海林、山崎、勝淳、梶浦の諸兄姉を京都驛に見送る。下關からは谷野さん峯岸さん渡邊（輝）さんの三名も御參加下さる筈。彼の地にもお光のみめぐみのいやさかえんことを祈らせて頂きましよう。

◆十月九日　あめ　一月以來福岡方面に托鉢中の法貴さん御歸園。山田光太郎さん新しく御入園なさる。

◆十月十日　くもり　燈影塾で京郎光の友の會催さる。目下天香様おるすの故か出席者極めて少く、まことに寂しい集りであつた。今少し眞劍であつて欲しいとも思はれる。

◆十月十二日　くもり　永らく大學病院に療養してゐられた嵯峨さん御退院。貞安さん長府より久しぶり御歸園。園托の御婦人達に敷布のお洗濯して頂く。

◆十月十四日　はれ　例により圓山公園に集團的托鉢。今朝は塾の方達に機先を制せられ、かへつて元氣百倍、能率も上つて可成り廣い場所を綺麗に掃かせて貰ふた。嵯峨さんは夜行で東京へ。

◆十月十七日　あめ　今日は東京一燈園道場開扉の日と承る。即ち一同合掌禮拜、赤誠こめて遙かに御禱添させて頂く。夜はしめやかなる雨の音を聞きながら土曜會の集ひ。

◆十月十九日　はれ　大根、ホーレン草、三ツ葉など下種す。

◆十月廿二日　はれ　八田さんは松浦博士夫人の告別式に赴かれた。郁子ちやんは風邪をひかれたと見え少し熱がある容子。好きな御菓子を食べようとしない。やはり子供は正直なものだ。

◆十月二十五日　はれ　川端さんが玉谷さんに代つて靜岡の田村様へ御托鉢。藤さんも亦同じく靜岡の緣りの里へ。緣りの里とは鈴木啓文さん御經營の養鷄場である。東京江口定條氏の奥様お泊がけで御見えになる。

◆十月二十九日　あめ　天香様からハルピン入りの御便りを頂く。夜は御供養の燒芋を頂きながら、それからそれへと話の花が咲く。

◆十月三十一日　くもり　同人四名、家政女學校のバザーに托鉢。下足番をさせて頂く。一口に下座々々といふけれども形式の下座があながち尊いのではない。たとひ下足番してゐながらも一義線上の妙諦を歩む工夫があつてこそ始めて尊いのである。

秋はだん〳〵深くなつて來た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

近代文化と一燈園生活

西田天香著
代價二十錢

購讀申込所
京都市烏丸頭小山下總町
回光社
振替大阪五九八三九、東京五七六七一

一燈園生活問答

松下吉衞著
代價十五錢

購讀申込所
東京市小石川區小日向臺町
文化學會出版部
振替東京七二八〇
京都市烏丸頭小山下總町
回光社

一燈園經要

御希望の方わ實費送料二十二錢（二錢切手）左記えお送り下さい。

東京市本所區林町二ノ七八
同勞會

大正十二年十二月二十四日第三種郵便物認可 毎月一回十五日發行

發行兼印刷人 京都市烏丸頭小山下總町五回光社内 西田保太郎

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN